

3歳児 I期（4月～5月）

ねらい		<ul style="list-style-type: none"> ・保育者とのかかわりを基盤にして新しい環境に慣れ、気に入った場や遊具で遊ぼうとする。 ・保育者の愛情を感じ取り、安心して生活する。 ・身の回りのことや自分でできそうなことを、保育者と一緒に行いながら園での生活の仕方を知る。 	
		進級児	新入児
学びの芽生え	思考	<ul style="list-style-type: none"> ・新しい保育室での遊びや遊具に興味をもち、自分の気に入った場や遊具で繰り返し遊ぶ。 ・飼育動物や栽培している植物など、身近な自然に触れて楽しむ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭で経験したことのある遊具で好きな遊びを楽しむ。 ・飼育動物や栽培している植物など、身近な自然に触れる。
	言葉	<ul style="list-style-type: none"> ・挨拶や「入れて」「貸して」などの遊びに必要な簡単な言葉が分かり、使ってみる。 ・楽しかったことを保育者に言葉で伝えようとしたり、困ったことや分からないことを、表情や動きに表したりする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・保育者や入園前から知っている友達と挨拶をする。 ・保育者にやりたいことを伝えようとする。 ・保育者の声掛けに答えようとする。
	創造	<ul style="list-style-type: none"> ・みんなと一緒に歌ったり、手遊びやリズム遊びをしたりすることを楽しむ。 ・身の回りにある物や遊具にかかわり、見立てたり、つもりになったりして遊ぶ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・保育者が行う手遊びや歌、リズム遊びを喜び、まねをして一緒にしようとする。 ・身近にある遊具を使って見立てたりままごとをしたりする。
人とのかかわり	協同	<ul style="list-style-type: none"> ・2歳児からの気の合う友達と一緒に遊ぶ。 ・誕生会や子供の日の集いなどの集会に参加して、楽しむ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・保育者や友達と一緒に過ごす。 ・誕生会や子供の日の集いなどの集会があることを知り、保育者と一緒に参加する。
	信頼	<ul style="list-style-type: none"> ・保育者との触れ合いを通して、安心して生活や遊びを楽しむ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・保育者との触れ合いを通して、安心して生活や遊びを楽しむ。
	規範	<ul style="list-style-type: none"> ・みんなで過ごすために必要な知っている約束を守ろうとする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・みんなで過ごすために必要な約束を知る。
生活習慣・運動	基本的な生活習慣	<ul style="list-style-type: none"> ・3歳児の1日の生活の流れを知る。 ・所持品の始末や身支度の仕方、トイレの使い方を知り、自分で行おうとする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生活の仕方や1日の流れを知る。 ・所持品の始末や身支度を保育者と一緒に行ったり、保育者の声掛けでトイレに行ったりする。
	運動	<ul style="list-style-type: none"> ・2歳児のときに経験した追いかっこや固定遊具で、体を動かして遊ぶことを楽しむ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・保育者と一緒に戸外で遊ぶことを楽しむ。

<指導例>

◇ 好きな遊具で遊ぼう

集団の中で安心して過ごせるようにする。

生活の仕方を知って、やってみよう

トイレの使い方やロッカーの使い方、荷物の置き方などを絵に描いて表示したり、手作りの紙芝居を作って見せたりして、保育者と一緒に繰り返し行う。

<援助のポイント>

- ・進級児は徐々に新しい環境に慣れて2歳児までの生活を引き継いでいけるように、新入児は自分の居場所を見つけて安定できるように、経験や生活の流れの違いを考慮して接していく。
- ・保育者は、温かい態度で一人一人に接しながら、子供が生活に慣れていけるように、手を添えたり繰り返し知らせたりして、個人差に配慮した援助を行うようにする。
- ・生活の流れを具体的に知らせ、安心して過ごせるようにする。
- ・進級児の不安や甘えを受け止め、一人一人が安心して過ごせるようにする。並行して、進級児が新入児に持ち物の場所を教える機会をつくるなど、できることを生かしながら遊びや生活の中で力を出すことで、進級した喜びにつなげていく。

<家庭との連携>

- ・進級、入園による喜びや不安を受け止め、園の様子を伝えるとともに家庭での様子を聞き、幼児も保護者も安心して園生活を楽しむことができるようにする。
- ・幼児が自分で身の回りのことができるように、扱いやすい所持品の用意を具体的に依頼する。

環境の構成

- ◆ 家庭で使い慣れている遊具、扱いやすい遊具を十分に用意し、すぐに遊びたくなるように遊びの途中の状況をつくっておく。(電車と線路、車、ブロック、ウレタン積木、ままごと道具など)
- ◆ 新入児も進級児も新しい環境に慣れて親しみがもてるよう、家庭的な雰囲気を感じられるようにする。

子供の姿

進級児：今まで遊んでいた遊びを繰り返したり、新しい遊具や興味のある場にかかわったりして遊んでいる。

電車を車庫に留めていることをイメージして、きれいに並べることを楽しんだり、登園すると必ずお気に入りのスカートをはき、安心してままごとや踊りなどを楽しんだりするなど、一人一人が自分なりのやりたいことをもって遊んでいる。

また、自分がしていることを保育者に見てもらいたくて、「先生、見て」と保育者を呼んだり、保育者がそばにいてくれることを喜んだりする。

新入児：ブロックや車など、家庭でいつも遊んでいた遊具に安心感をもち、それを手に取ることで過ごしている。また、今まで遊んだことのない遊具に興味をもち、次々と触れて過ごしている子供もいる。

中には新しい環境に不安を感じ、自分からは動き出せないが周囲で友達が遊んでいる様子を見て楽しんでいる子供もいる。保育者が横にいればままごとなどをして遊ぶが、保育者がその場を離れると保育者についてきて、遊びをやめてしまう姿もある。

少しずつ園生活に慣れ、自分のマークや部屋、先生の顔を覚え、安心して過ごせるようになってきている。

保育者に慣れ、困ったことや嫌なことを泣いて表す、うれしいことを表情や動きで表すなど、保育者に自分の気持ちや伝えようとしている。

経験している内容

★学びの芽生え ●人とのかかわり ▲健康・体力

★自分から興味のあるものに取り組む。

★自分なりのやり方で遊ぶ。

●友達がしていることを見る。



▲所持品の始末やトイレの使い方など生活の仕方を知る。

▲物を動かしたり、室内外で動いたりする。

●保育者と一緒に遊ぶことを喜ぶ。

援助のポイント

- ◆ **新しい環境に慣れ、自分から物にかかわって遊ぶ楽しさや安心感がもてるようにする**
家庭で親しんでいる遊具や好きな遊具で、誰もが自分のやり方で遊べる場と時間を確保する。「楽しかった」「また遊びたい」と思えるように、保育者も一緒に遊びながら気持ちを支える。
- ◆ **幼児が楽しんでいることを言葉にしたり保育者も同じように動いたりする**
不安な子供の気持ちに寄り添い、子供のありのままの姿を受け止める。保育者が温かく見守っていることや受け止めていることを感じ取れるように、子供と同じ動きをしたり楽しんでいることを言葉にして認めたりする。
- ◆ **進級児、新入児の喜びや戸惑いを受け止める**
常にゆったりと温かい雰囲気をつくり、スキンシップを多くしたり、一人一人の言葉や動きを受け止めたりして、保育者との信頼関係を基盤に安心して過ごせるようにする。

3歳児 Ⅱ期（6月～9月上旬）

ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・身の回りの環境や様々な活動に興味や関心をもち、かかわって遊ぼうとする。 ・同じ場にいる友達と一緒にいたい友達に親しみを感じ、かかわることを楽しむ。 ・身の回りのことや自分でできることを行おうとする。 	
学びの芽生え	思考	<ul style="list-style-type: none"> ・自分のしたい遊びや、気に入った遊具や場を見つけて繰り返し遊ぶ。 ・飼育動物や園庭の虫や草花など、身近な自然に触れて楽しむ。
	言葉	<ul style="list-style-type: none"> ・保育者や友達と挨拶を交わしたり、思ったことを話したりする。 ・「入れて」「貸して」などの遊びに必要な言葉を使ったり、友達の言葉を聞いたりする。 ・楽しかったことを保育者に言葉で伝えようとしたり、困ったことや分からないことを、表情や動きに表したりする。 ・保育者と一緒に絵本や紙芝居を楽しむ。
	創造	<ul style="list-style-type: none"> ・身の回りにあるいろいろな素材にかかわり、感触を味わう、見立てる、作るなどして遊ぶ。 ・ままごとやごっこ遊びを喜び、つもりになって楽しむ。 ・歌ったり、手遊びやリズム遊び、簡単な表現遊びをしたりすることを喜ぶ。
人とのかかわり	協同	<ul style="list-style-type: none"> ・友達の動きをまねたり、同じように遊んだりすることを喜ぶ。 ・クラスの友達と一緒に動いたり、誕生会や季節行事などの集会に参加したりして、楽しむ。
	信頼	<ul style="list-style-type: none"> ・生活や遊びの中で、自分の思いを動きや言葉で、保育者や友達に伝えようとする。 ・友達とかかわって遊ぶ中で、保育者の仲介の下、相手に自分とは違う思いがあることを感じる。 ・砂や水などで遊び、開放感を味わう。
	規範	<ul style="list-style-type: none"> ・生活や友達とのかかわりの中で、よいことと悪いことに気付く。 ・みんなで過ごすために必要な約束や、簡単な遊びのルールが分かる。
生活習慣・運動	基本的な生活習慣	<ul style="list-style-type: none"> ・1日の生活の仕方や流れが分かり、安心して生活する。 ・所持品の始末や身支度の仕方、トイレの使い方が分かり、自分でやろうとする。 ・汚れたりぬれたりしたら気持ちが悪いと感じ、自分で着替えようとする。 ・食事の準備や片付けの仕方が分かり、できることを自分でやってみる。
	運動	<ul style="list-style-type: none"> ・戸外に出て遊ぶことを喜び、保育者と一緒に追いかけっこをしたり、気に入った遊具で遊んだりして、体を動かすことを楽しむ。 ・みんなと一緒に体を動かす楽しさや、戸外で遊ぶ心地よさを感じる。

<指導例>

◇ 泥んこの感触を楽しもう

素材の感触や新しい遊び方に興味をもってやってみる。

プールごっこ

折りたたみプールの中に新聞紙を裂いて入れ、プールの水に見立てる。準備体操をしてプールに入ったり、水かけっこをしたりしてプールに入っているつもりで、開放感を味わいながら遊ぶ。

<援助のポイント>

- ・友達への関心が出てくる時期なので、友達と一緒に動く楽しさが感じられるような活動を取り入れていく。
- ・砂や泥、水などとかかわり、開放感を味わって遊ぶことで、自分の思いを十分に出せるようにしていく。
- ・9月は、長期休業明けで生活のリズムが年度初めの頃に戻ることが予想される。保育者とかかわりの中で個人差に配慮した援助を行い、園生活のリズムが取り戻せるようにする。

<家庭との連携>

- ・保護者が保育に参加する機会をつくり、体験を通して子供の姿を知ったり、保護者同士のかかわりを深めたりして、園の保育・教育に関心がもてるようにする。
- ・排便後の始末（トイレトペーパーの使い方や拭き方など）について具体的に知らせ、家庭と一緒に進めていく。

環境の構成

- ◆ 砂や水を使って伸び伸びと遊べるように身支度を整える。靴置き場や足洗い、着替えの場は、子供が分かりやすいように設定しておく。
- ◆ 砂を扱いやすいように掘り起こしておく。また、子供が水を汲みやすい大きさのたらいに水を張り、適宜補充する。
- ◆ 一人一人がゆったりと遊べるようにバケツやじょうろ、シャベルなど遊具の種類や数を十分に準備しておく。

子供の姿

喜んで砂場に行き、自分から水を運んだり砂と混ぜたりして、「どンドン混ぜ混ぜ」と混ぜる様子や泥んこの感触など、感じたことを伸び伸びと表現する。冷たさやベタベタの感触を喜ぶ子供や、水たまりに入り声を上げながら喜ぶ子供もいる。

「ペタペタだ」「こっちはベチャベチャ」など言葉で感じたことを表しながら遊んだり、「チョコレートみたい」「クリームみたい」と自分なりに見立てて、ままごとのごちそうにして、カップに入れたりする。「先生、クリームだよ」「本当。ああ、おいしい」と保育者とのかかわりを喜ぶ。

J児は汚れることやベタベタ、ベチャベチャなどの感触が好きではなく、砂場には入らない。保育者が「わあ、ペタペタ楽しい」と言って遊ぶのをにこにこして見ている。乾いた砂を「サラサラー」と言ってJ児の手のひらに少し載せると、「やだあ」と笑って払う。

経験している内容

★学びの芽生え ●人とのかかわり ▲健康・体力

★サラサラ、ベチャベチャ、ドロドロ、冷たいなど様々な感触を味わう。

★自分なりに見立てて遊ぶ。

★●手足を使って砂や水の感触を味わったり、思わず声を出したりして、開放感を味わう。



●同じ場にいる保育者や友達と同じように遊ぶことを楽しむ。

●自分の感じたことや見立てたことを保育者に話し、応じてもらうことを喜ぶ。

▲しゃがんで遊ぶことや何度も水を汲んで運ぶなど、足腰をたくさん使う。

援助のポイント

◆ 一人一人の感じ方を受け止めるとともに、感触の楽しさをつぶやいていく

砂や水、泥などに触れて感じることは、楽しさ、気持ち悪さなど一人一人異なる。保育者はまず子供の感じたことを受け止め、子供と同じ言葉で返していく。また、水や泥んこで遊ぶ楽しさや感触の面白さを簡単な言葉で表しながら楽しそうに遊ぶ姿を見せる。不快感や抵抗感の強い子供には、徐々に慣れるように機会をつくっていく。

◆ 身支度の仕方や後始末の仕方を知らせ、自分でやろうとすることを促す

服の袖や裾の始末の仕方や着替えなどのやり方、遊んだ後の遊具の片付け方や足の洗い方などを援助しながら繰り返し知らせていく。汚れてもきれいになると心地よいことや自分でできるうれしさを受け止め、励ましていく。

3・4・5歳児 夏季保育（7月下旬～8月）

ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・自分のやりたいことを見付けたり、夏の自然にかかわったりして、十分に遊びを楽しむ。 ・いろいろな友達とのかかわりの中で、自分の思いを表して遊ぶ。 ・夏の生活の仕方が分かり、安定して過ごす。
学びの芽生え	<ul style="list-style-type: none"> ・色水や石けん遊び、シャボン玉など、夏ならではの遊びを繰り返し楽しめるようにする。 ・保育者もモデルとなって一緒に遊びながら、色や泡の変化の面白さや、水を使って遊ぶ楽しさを感じさせていく。また、子供が色や泡の変化に気付いたり、色が出る草花を発見したりすることに共感し、興味や関心をもって考えたり試したりしながら、繰り返し楽しめるようにする。 ・夏に実のなる植物を自分たちで世話をすることで、生長や収穫を楽しみにできるようにする。 ・カブトムシやザリガニなど手に持って触れることのできる生き物を飼育することを通して、生き物への親しみや、興味や関心をもてるようにする。 ・カブトムシやスズムシなど夏から初秋にかけて成虫になる昆虫を飼育して親しみ、変化に気付いたり図鑑などで調べたりしながら、興味や関心、探究心をもてるようにしていく。 ・年上の子供がしている遊びを見てまねたり、年下の子供に遊びを教えたりしながら、遊びの経験を広げていけるように、互いの姿が見えるような場の工夫をする。 ・家庭や地域での経験を、遊びに取り入れて楽しめるようにする。
配慮点	<p style="text-align: center;">人とのかかわり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・登園状況により、友達関係が変わったり、様々な保育者とかわることが増えたりするため、子供一人一人の気持ちを受け止め、自分の思いを出しながら安定して過ごせるようにする。 ・夏の時期にも、みんなで一緒に遊ぶ楽しさを感じることができるよう活動をとり入れていく。 ・一緒に生活する中で、様々な友達との自然な交流を見守るとともに、時には保育者が一緒にかわりながら、遊びのルールや考え方の調整をし、異年齢で遊ぶ楽しさを感じられるようにしていく。 ・異年齢の子供同士がかわることを、今までとは違う相手へのかかわり方を学んだり、年上の子供への憧れを育んだりする機会と捉えて援助する。
生活習慣・運動	<ul style="list-style-type: none"> ・毎朝の視診を丁寧に行い、健康面に留意する。 ・暑さのために体調を崩したり食欲が落ちたりするので、1日の生活の流れに余裕をもって設定し、一人一人が安定できるようにゆっくりと過ごせる環境を整えていく。 ・午睡の時間を十分にとるなど、体を休めることができるような時間と場を工夫する。 ・室内外の温度差から体調を崩すことがあるので、室内の温度調整に配慮する。 ・こまめに水分補給をするように声を掛ける。 ・プール遊びや水遊びを取り入れ、戸外で体を動かす楽しさや、水の中で動く楽しさが感じられるようにする。 ・光化学スモッグなどで戸外に出られない日もあるため、室内でも巧技台を使ってアスレチックをするなど、体を動かす楽しさを感じられるようにする。 ・栽培物を収穫したり食べたりすることを通して、食べ物に興味や関心を持ち、友達と一緒に食べる喜びを感じることができるようになる。
<p>＜異年齢児と一緒に生活する上での配慮点＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3歳児の状況に応じて、遊びの場を区切ったり、4・5歳児と別の保育室を生活の拠点にしたりするなど、一人一人の遊びや生活のペースを大切にしてお過ごせるように配慮する。 ・同じ遊びや活動の中でも、3歳児、4歳児、5歳児それぞれに応じた必要な経験ができるように援助する。保育者がどの子供にも適切に対応できるように、連絡を密に行う。 	



<活動例>

<プール遊び・水遊び> ビニールプール、組み立て式や作り付けの大きなプール、小学校又は地域施設のプールでの水遊び、水鉄砲、ペットボトルシャワー、浮き輪、ビート板、色水、石けん遊び、シャボン玉、フィンガーペインティングなど

<自然とのかかわり> カブトムシ、スズムシ、ザリガニなどの飼育、夏野菜の栽培や収穫、セミの抜け殻探し、園で飼育しているウサギやモルモットなどの世話、夕立、入道雲、木陰の涼しさなど、夏ならではの自然現象の体験など

<夏季保育中の行事> 縁日ごっこ、夕涼み会など

<その他> 地域の施設利用（図書館、児童館など）



<家庭との連携>

- ・食欲が落ちたり暑さからの疲れが出たりしやすいので、十分に休息を取り、食事や睡眠のリズムを整えてもらう。
- ・プールチェック表への記入を保護者に依頼し、子供の健康状態を把握して、安全にプール遊びができるようにする。
- ・夏にかかりやすい感染症の症状や熱中症の予防や対応など、夏の健康な生活に必要な情報を伝える。
- ・夏季保育ならではの経験（夏の遊び、自然とのかかわり、友達関係の広がりなど）や、そこで見られる子供のよさを具体的な姿を通して伝えていく。

3歳児 Ⅲ期（9月中旬～10月）

ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・保育者や友達のしていることに興味をもち、自分から遊ぼうとする。 ・友達と一緒に遊ぶ中で約束やきまりがあることを知る。 ・伸び伸びと体を動かして遊ぶことを楽しむ。 	
学びの芽生え	思考	<ul style="list-style-type: none"> ・自分のしたい遊びを繰り返す。 ・砂や水を使って遊び、感触を楽しむ。 ・自然物（木の葉や木の実など）に興味や関心をもつ。
	言葉	<ul style="list-style-type: none"> ・経験したこと、感じたこと、思ったことなどを保育者に話そうとする。 ・生活の中で必要な言葉が分かり、使ってみる。 ・リズムのある言葉を喜んだり、一緒に言ったりする。 ・絵本や紙芝居を楽しみにする。
	創造	<ul style="list-style-type: none"> ・身近な素材を使って描いたり作ったりして、表現する楽しさを感じる。 ・自分で作った物を使って遊ぶ。
人とのかわり	協同	<ul style="list-style-type: none"> ・同じ場にいる友達や保育者にかかわって遊ぶ楽しさや、一緒にいる心地よさを感じる。 ・友達や異年齢児の遊びに関心をもち、仲間に入ったり一緒に動いたりして楽しむ。 ・園のいろいろな行事に参加して楽しさを感じる。
	信頼	<ul style="list-style-type: none"> ・自分のしたいことをしながら、安心して遊ぶ。 ・一緒にいたい友達ができ、自分からかかわっていく。 ・自分の思いを自分なりの方法で相手に伝えようとしたり、相手の思いを感じたりする。
	規範	<ul style="list-style-type: none"> ・簡単なルールが分かり、みんなで一緒に遊ぶことを楽しむ。 ・自分の物、他の人の物、みんなの物の違いが分かる。
生活習慣・運動	基本的な生活習慣	<ul style="list-style-type: none"> ・手洗い、うがい、衣服の着脱、排せつなどの手順が分かり、自分でしようとする。 ・保育者と一緒に自分の遊んだ遊具や用具、場を片付けようとする。
	運動	<ul style="list-style-type: none"> ・いろいろな遊具を使う、走る、跳ぶなど体を動かして遊ぶことを楽しむ。 ・保育者や友達と曲に合わせて体を動かしたり、動きをまねしたりする。

<指導例>

◇ いろいろ色鬼、どんな色

保育者を中心に友達と一緒に動く楽しさを味わう。

僕も私も〇〇マン

お面を付けたりに手に道具（ステッキなど）を持ったりしながら、好きな曲に合わせて、なりきって動いたり踊ったりして、表現を楽しむ。

<援助のポイント>

- ・身の回りのことを自分からしようとする姿を見守り、認めたり褒めたりすることで自信をもたせていく。
- ・運動遊びやリズム遊びを通して、保育者も子供と一緒に体を動かしながら、その楽しさを伝えていく。また、友達や保育者と一緒に遊ぶ楽しさを感じられるように、活動内容を一人一人の子供の状態を見ながら工夫していく。

<家庭との連携>

- ・運動会などの取組や参加の仕方は個人差があることを伝え、その子なりの成長を感じてもらえるようにする。また、他学年の子供の様子も見てもらい、成長への期待や見通しをもって、3歳児の成長の様子を理解してもらうようにする。

環境の構成

- ◆ 言われた色のフープに入るという遊び方が分かるように、遊びながらゆっくり丁寧に伝えていく。また鬼の言った色を聞いて自分で見付けて動けるように、一人一人のペースを大事にする。
- ◆ 体を動かす楽しさを感じられるように、思い切り走れる空間を確保する。
- ◆ 誰もが入れて安心できるようにフープの数を多めに出したり、子供が自分で選べる色を配慮して出したりする。慣れてきたらフープの数を減らすなど変化させていく。

子供の姿

子供と保育者で「いろいろ色鬼、どんな色」と声を合わせて言う。保育者が「黄色」と言うと、歓声を上げて子供たちが走り出す。黄色いフープに入る子供、一生懸命にフープを探す子供など、その子なりに動きながら繰り返し走る。慣れてくると近くにいる友達と手をつなぎ、早く同じフープに入るのを楽しむ様子も見られる。

「いろいろ色鬼…」という言葉喜び、子供たちだけで友達と合わせて言おうとするようになる。「次はきっと赤だよ」と次の色を予想する姿もある。

また、わざとフープには入らずに、保育者の動きに自分の動きを合わせて、保育者に捕まえられることを楽しむ。保育者と一緒に走ることで、遊びに参加できるようになる子供もいる。

経験している内容

★学びの芽生え ●人とのかかわり ▲健康・体力

★指示された色を自分で探し、繰り返し動くことを楽しむ。

★●友達と一緒に言うことの楽しさを感じたり、保育者と簡単な言葉のやり取りを楽しんだりする。

●友達と一緒に動いたり、動きをまねしたりすることを楽しむ。



▲思い切り体を動かす楽しさを感じる。

★▲鬼の動きを見ながら自分の動きを調節する。

●保育者と一緒に遊ぶことで、安心して自分らしさを出して楽しむ。

援助のポイント

- ◆ **保育者とのつながりを基に、友達の中で動く楽しさを味わう**
一人一人のペースで色を探したり、体を動かす楽しさを十分に味わったりできるように、しばらくは保育者が鬼になって合図や追いかけるタイミングを調整する。
子供たちが十分に楽しめるようになったところで、フープの数を減らしたり置き方を変えたりして、より楽しさを味わえるようにする。
- ◆ **体を動かす楽しさを感じられるようにする**
安全に走れる十分なスペースを確保し、その子供の動きに合わせて動いたり、楽しさを言葉に出して伝えたりしながら、保育者も共に楽しむ。
- ◆ **リズムのある言葉を一緒に言う楽しさを共に味わう**
リズムのある言葉を使うことで、ゲームの展開が分かりやすくなる。また「いろいろ色鬼、どんな色」と保育者も共に楽しみながら声を合わせ、ゲームの雰囲気をもっと楽しいものにしていく。

3歳児 IV期（11月～12月）

ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の好きな遊びをしたり、面白そうなことをしている友達とかかわったりしながら、遊ぶ楽しさを感じる。 ・みんなと一緒に活動する中で、保育者や周りの友達の動きを見ながら、自分なりに動く楽しさを感じる。 ・園生活に必要なことを感じ取りながら、自分でしようとする。 	
学びの芽生え	思考	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の好きな遊びを繰り返し楽しむ。 ・身近なものの色、形、多い、少ないなどの違いに気付く。 ・好きなものになりきったり見立てたりして遊ぶ中で、感じたり考えたりしながら自分のイメージを表現して、楽しむ。 ・落ち葉や木の実、球根など自然物への関心を持ち、気付いたり見立てて遊んだりする。
	言葉	<ul style="list-style-type: none"> ・遊びやおしゃべりの中でやり取りを楽しみながら、生活に必要な言葉を増やしていく。 ・好きな絵本や紙芝居ができ、何度も読んでもらったり、見たりして楽しむ。
	創造	<ul style="list-style-type: none"> ・カスタネットや鈴、手作り楽器などで遊び、自由に鳴らしたり音色を楽しんだりする。 ・自分なりのイメージをもって、描くことや作ることを楽しむ。 ・絵本や紙芝居を見て、好きな言葉を言ったりなりきって表現したりする。
人のかかわり	協同	<ul style="list-style-type: none"> ・保育者や友達と同じ遊びや生活を楽しんでする。 ・友達と同じことがしたい、という気持ちが高まり、一緒に遊ぼうとする。
	信頼	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の気持ちや困っていること、してほしいことなどを、保育者に自分なりの言葉や方法で伝えようとする。 ・行事を通して異年齢の子供と触れ合い、楽しさを感じたり、年長児に対する憧れを感じたりする。
	規範	<ul style="list-style-type: none"> ・保育者や友達と簡単なルールのある遊びを楽しむ。 ・遊びの中で遊具の安全な使い方や動きに気付く。
生活習慣・運動	基本的な生活習慣	<ul style="list-style-type: none"> ・手洗いやうがいの大切さを知り、自分でしようとする。 ・箸の持ち方を知り、箸を使って食事をしようとする。
	運動	<ul style="list-style-type: none"> ・走る、踊る、鬼ごっこをするなどみんなと一緒に体を動かすことを楽しむ。 ・音楽に合わせたリズム遊びやボールを蹴る、ブランコに乗るなど、遊具を使った運動遊びを楽しむ。

<指導例>

◇ **見て見て、葉っぱでお面を作ったよ**
秋の季節を感じたり、自然物にかかわって遊んだりすることを楽しむ。

サーキット遊びを楽しもう！

例) スタート→ごろごろ転がる→平均台渡り→トランポリン跳び→はって棒渡り→タンバリンをねらってジャンプ→室内鉄棒→はしご登り、室内滑り台滑り（巧技台）→はじけに戻る
保育者の動きを見ながら遊び方を知り、様々な動きを個々に応じて楽しめるようにする。遊びながら安全な遊び方や、順番なども経験できるようにする。

<援助のポイント>

- ・自分のイメージや見立て、言葉や動き、造形遊びなどで伸び伸びと表現する喜びを大切にする。
- ・一緒にいたい友達とかかわれるようにコーナーや遊びの場の配置に留意し、自分なりに思いを言葉や行動に表している姿を認め、安心して遊べるようにする。また、クラスの友達と一緒に活動する楽しさを味わえるようにする。

<家庭との連携>

- ・園で楽しんでいる秋の自然にかかわる遊びや、散歩コースの紅葉や木の実を拾える場所などをクラスだよりや写真の掲示などで知らせ、家庭でも自然に親しむとともに、親子のかかわりを大切にします。

環境の構成

- ◆ 季節の変化が感じられるように、保育者は会話の中で木の葉の色の変化などに気付かせたり、戸外に誘ったりする。
- ◆ 子供が自由に自然物を見たり触れたりすることができるように、室内にドングリやマツボックリ、落ち葉などを飾ったり、子供が持ってきたものを置く場所をつくったりする。

子供の姿

大きな落ち葉を拾った子供が、傘に見立てて遊び始める。それを見ていた周囲の子供も大きな葉を探し「あっ、雨が降ってきたよ」と、友達や保育者を誘い、大きな落ち葉の傘をさして歩き、「雨の日ごっこ」を楽しんでいる。

その後、同じ葉を魔法のステッキに見立て、「オオカミになあれ」と友達や保育者に魔法をかける。かけられた子供が「ガオー」と言いながら繰り返し遊ぶ。

保育者が大きな落ち葉に穴を開けて顔に付け「おぼけ」と言うと、子供たちは喜んで逃げる。そこからおぼけごっこが始まる。途中でおぼけになりたくなかった子供は、落ち葉を拾っておぼけ役に変身している。

繰り返し追いかっこを楽しむ。

落ち葉をかき分けながら「ドングリはどこかな」と長い時間ドングリを探している。ドングリを見付けると、「このドングリ、帽子かぶってるんだよ」「こっちは大きいよ」「比べっこしよう」など、友達と拾ったドングリの形や大きさを見せ合ったり、数えたりする。

集めたドングリは、空き容器に入れてマラカスを作り、「いい音がする」と言いながら鳴らす。

経験している内容

★学びの芽生え ●人とのかかわり ▲健康・体力

★木の葉の色の変化や、落ち葉、風の冷たさに気付く。

★大きさや量、形を比べたり、数を数えたりする。

★様々に見立てたり、イメージしたりして遊ぶ。



▲夢中になって見付けたり集めたりし、しゃがむ、両手に抱える、つまむなど様々な体の動きをする。

●保育者や友達に自分が見付けた物を見せたり、たくさん集めたことを伝えたりする。

★●友達や保育者と一緒に自然物の感触や音がすることを楽しむ。

援助のポイント

◆ 子供が様々な方法で自然にかかわることや、そこでの気づきを大切に受け止める

保育者がすすんで自然物を遊びに取り入れたり楽しく遊んだりすることによって、子供の動きや気づきを引き出ししていく。落ち葉を踏んでカシャカシャと音がすることや、上から落ち葉をひらひらとまくなど、体の様々な感覚を使い十分に自然物にかかわって遊ぶことの面白さや、感じたことを自由に表現する楽しさを感じられるようにする。

◆ 秋の自然に触れる機会を多くもつ

保育室内に秋の自然を感じられるような物を置く、子供を戸外に誘って十分に遊ぶ、自然物を遊びに取り入れる、落ち葉が多い日は園庭をそのままにしておくなど、秋の自然に触れる機会を多くもつ。

3歳児 V期（1月～3月）

ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の思いを出しながら好きな遊びを十分に楽しむ。 ・保育者やクラスの友達と一緒にリズム遊びや表現遊びを楽しむ。 ・園生活に必要なことが分かり、できることを自分からしようとする。 	
学びの芽生え	思考	<ul style="list-style-type: none"> ・風の冷たさや息の白さなど、冬の自然の変化を見たり、触れたりして体で感じる。 ・花の開花や日差しなどから春の訪れを感じる。
	言葉	<ul style="list-style-type: none"> ・生活に必要な言葉が分かり、自分なりに使おうとする。 ・思ったことを友達に言ったり、相手から聞かれたことに応じて答えたりする。 ・保育者や友達と、簡単ななぞなぞや反対言葉などを楽しむ。
	創造	<ul style="list-style-type: none"> ・身近にある素材や材料（広告紙、小さく切った紙、小箱、カップなど）を、自分なりに選び、作ることを楽しむ。 ・リズムに合わせて身近な楽器を鳴らすことを楽しむ。 ・絵本やお話のイメージを楽しみ、なりたいたいものになったり動いたりするなど、自分なりの表現を楽しむ。
人とのかかわり	協同	<ul style="list-style-type: none"> ・保育者や友達のしている遊びに興味をもち、自分もかかわりながら遊ぶ。 ・一緒に遊びたい友達と同じ場で遊ぶ中で、自分なりの動きを出す。
	信頼	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の思っていることややりたいことなどを言葉や動きで表しながら遊ぶ。 ・保育者に励まされながら様々なことに取り組み、できたことを喜び、大きくなったことを感じる。
	規範	<ul style="list-style-type: none"> ・生活や安全に必要な簡単なきまりが分かる。
生活習慣・運動	基本的な生活習慣	<ul style="list-style-type: none"> ・身の回りの物の整理や遊びの片付けなど自分のことは自分で行う。 ・身の回りで必要なことを自分からしたり、できるようになったことを喜んだりする。 ・やけどに気を付ける、戸外に出るときは上着を着るなど、冬の生活に必要なことを知り、自分からやってみようとする。
	運動	<ul style="list-style-type: none"> ・寒くても戸外に出て、保育者やみんなと一緒に簡単なルールに沿って体を動かして遊ぶことを楽しむ。 ・散歩を通して、坂道や歩きにくい所もしっかりと最後まで歩く。 ・戸外で遊んだり固定遊具や巧技台を使って遊んだりすることを通して、いろいろな体の動きを楽しむ。

<指導例>

◇ 片付けの後は、どんな楽しいことがあるのかな

自分なりに生活の見通しをもつ。

つながってみよう、繰り返しやってみよう

「大きなかぶ」や「手ぶくろ」といった、繰り返しのあるストーリーの中で自分なりのイメージを膨らませ、役になりきってつながってみたり、繰り返しのあるセリフを言ってみたりして、友達と一緒に楽しむ。

<援助のポイント>

- ・友達との遊びを楽しんでいることを十分に受け止め、共感する。
- ・子供が自分から気付いてやってみようとする姿やできるようになったことを認めて、進級する気持ちへつなげていく。

<家庭との連携>

- ・子供の1年間の成長を具体的に保護者と伝え合い、喜びを共感しながら進級する気持ちへつなげる。
- ・個人差が大きく進級に向けての不安な気持ちをもつこともあるが、今できることを十分に認め、成長を見守ってもらうようにする。

環境の構成

- ◆ 片付けや身支度の順番を、分かりやすく絵や写真で表示しておく。
- ◆ 「すてきなおしらせ」(片付け後の予定)を絵で表示し、片付け後に楽しいことがあることを示しておく。
- ◆ 棚やかごに目印を付けたり、整理しやすく仕切ったりして、子供が片付けやすいようにする。

子供の姿

「片付けたら楽しいことをしようね」と保育者が声を掛け、片付け始める。片付けようとして同じ遊具を友達と取り合ったり、慌てるあまり友達とぶつかってしまったこともある。一方で、なかなか片付けに気持ちが向かない子供もいる。「これ、何だろうねえ」と、保育者は遊具の片付け場所や片付けの順番の示してあるカードに気付かせる。「あ、ここにしまうんだよ」「知ってるよ」「次は積木を片付けるんだよ」などと言いながら、それぞれが気付いた物を片付ける。「自分でどんどんできるんだね」と認めながら、保育者も一緒に片付けていく。「片付けが終わったら、今日は何があるのかな」と保育者がつぶやくと、表示に気付いた子供が「劇ごっこだ」「やった」と言って、最後まで片付ける。「片付けたら、手洗いうがい」と水道に向かう。

「汚れたから着替えるね」と自分から着替えを始める子供がいる。「一人でできたよ」と保育者に伝えている友達の様子を見て、K児は最後まで自分一人で着がえようとする。「Kちゃんも、一人で最後までできたね」と保育者に言われ、K児は「だってもうすぐお兄さん組だもん」とにっこり笑う。

経験している内容

★学びの芽生え ●人とのかかわり ▲健康・体力

★表示に描いてある絵から、次の行動を感じ取る。

★片付ける場所の表示を確認し、物と場を対応させて片付ける。

▲着替えや手洗い、うがいなどを自分で行おうとする。



●▲保育者や友達と一緒に片付けようとする。

●最後まで自分でできたことに満足感をもつ。

★●次の活動を楽しみにし、今やる必要のあることを自分から行う。

援助のポイント

◆ 3歳児なりの見通しをもつ機会にする

片付ける場所や順番を絵や写真で示すなど、分かりやすく表示し、関心をもった子供が自分なりに見通しをもって取り組む機会にする。また、次の活動を示すことで楽しみにして行動する経験につなげる。

◆ 生活習慣を確かめ、進級する喜びにつなげる

表示を活用して、生活習慣が身に付いているかどうかを子供とともに確かめる。保育者は子供が自分で最後までやってみようとする姿を十分に受け止め、その子供の状況に応じて手助けをしたり、見守ったりして、できた喜びを味わえるようにする。すすんで行動する姿や最後まで行おうとする姿を成長として認め、一緒に喜び、進級することへの期待につなげていく。